「りょ」「いみふ」「ワンチャン」――。若者が使う言葉の意味が分からず困惑することは少なくない。「若者言葉」は昔から存在するものだが、最近はSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）によって、登場のサイクルが早くなっているようだ。（山村翠）

若者言葉の例

りょ、り	了解
とりま	とりあえず、まあ
いつあり	いつもありがとう
いみふ	意味不明
ワンチャン	ワンチャンスの略で、期待感を表す意味で使われる
あーね	あー、なるほどね
イツメン	いつものメンバー
おこ	怒っている
おけ	OK

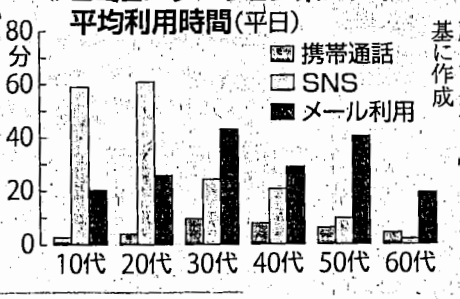
文章の書き方に影響

若者言葉を多く生み出しているSNS。総務省の調査（2016年）によると、10代、20代の利用時間が圧倒的に多い＝グラフ＝。その分、従来のコミュニケーションに影響も出ているようだ。

大正大学助教の中島紀子さんは「段落の始まりで1字下げをしない、句読点をきちんと打っていないといった学生のリポートが散見されます」と明かす。SNSで短文を使う機会が増えたことと関係がありそうだ。

「若い人たちは年賀状もやりとりせず、書く機会が減っている。起承転結をつけ、長文を書くことが苦手になっているようです」と中島さん。同大では、文章の基本的な書き方などを復習する授業が初年度の必須科目になっている。

コミュニケーション系メディアの平均利用時間（平日）



※総務省情報通信政策研究所の調査（2016年）を基に作成

別の大学の教授は「LINEで会話するように、『課題の提出日はいつですか』とだけ書いたメールが学生から届くことがある」と話す。文面には宛名、あいさつの言葉、タイトル、差出人の名もなかった。用件だけ短く書かれていたという。

中島さんは「誰に向けて、何を書いているのかきちんと意識し、SNSの場合とそれ以外では書き方を使い分けることが大切」と話す。

私も大学時代の時に課題を提出した際、教授から「この部分は若者言葉だから訂正するように」と言われたことがあります。自分ではきちんとした文章を書いたと思っていても、相手からしたら疑問に思う文章だったのです。一番怖いのは何気なく使用している言葉が、若者言葉のような世間一般的には理解が難しい言葉で、社会では受け入れられない時です。そのようなことにならないためにも、親や祖父母などと会話をしてみて、おかしな言葉遣いがないかを指摘してもらうのも一つの方法なのではないかと思います。